令和２年度　　道徳科　研究のまとめ

下伊那教育会　道徳委員会

## Ⅰ　研究テーマ

非常時の今だからこそ見つめなおす道徳科の本質と年間指導計画

## Ⅱ　研究の方向・重点

コロナ禍にあって臨時休校が続く中，『特別の教科「道徳科」の年35時間をどのように確保しますか。工夫を教えてください』という内容で，4月にとったアンケートの結果を見直したり，委員の学校の様子を発表し合ったりする中で，各校の道徳教育や道徳科についていくつかの課題が見えてきた。

【アンケートの結果から見えてきた課題】
・「道徳教育」と「道徳科」との違いが曖昧になっている。
・学校における道徳教育の重点目標が明確になっていないため，学校の教育活動で行う道徳教育の方向性がはっきりしていない。(道徳教育の全体計画)
・教科書会社のものをそのまま使った道徳科の年間指導計画。　　等

やむを得ない事情で授業時数を減らすとき，35時間で計画した資料の何を削るかを検討するためには，道徳科の年間指導計画が必要である。そして，道徳科の年間指導計画は，その学校の道徳教育の全体計画がよりどころとなっているはずである。

そこで，本年度は授業づくりの基盤となる道徳科の本質を委員会で学習するとともに，「道徳教育の全体計画」「道徳科の年間指導計画」など各校で整備すべき資料の作成のポイントを研究し発信したいと考え，本年度の重点とした

## Ⅲ　研究内容

### 一　学ぶ　　第2回道徳委員会(7月7日)

ｱ) 昨年度の教育課程研究協議会午後の部で，道徳委員会が発表した「道徳科」についてのプレゼンを，本年度のメンバーで見直した。
ｲ) 「学習指導要領解説　総則編　道徳教育推進上の配慮事項」を読み合わせた。
ｳ) 「学習指導要領解説　特別の教科　道徳編」を読み合わせた。
ｴ) 松尾小学校の「道徳教育の全体計画」,「道徳科の年間指導計画」の作成の様子を池田綾委員から学んだ。

### 二　やってみる

第3回委員会(9月1日)で，委員一人ひとりが作成した「道徳教育の全体計画」を検討し意見を出し合い，さらに修正したものを第4回委員会(9月29日)で見直した。

ｱ) 道徳委員一人ひとりが，自分の学校の「道徳教育の全体計画」を作成した。
・実際に全体計画を作成することで，作成上の困難点や配慮すべきこと，活用できる資料など，発信を意識して作成のポイントをまとめた。
・作成した「道徳教育の全体計画」をお互いに見合い，わかりやすさなどを指摘し合うことで，よりよい全体計画を作成するためのポイントをまとめた。

ｲ) 「道徳教育の全体計画」に基づいた自分の学年の「道徳科の指導計画」を作成した。
・①の全体計画作成と同様に，“作成のポイントの発信”を意識して，実際に作成してみた。

**全体計画を作成して（委員の感想）**

○全体計画は，指導要領解説や総則を基に作成していることが分かった。本校にあった全体計画は全体的に文章が長かったため，短くまとめることに苦労をした。道徳に関わっている先生方と相談しながら行った。

○全体計画を作成したことで

・指導要領の何を参考にして作成するのかが分かった。一方で，重点に照らして作成していくことの難しさを感じた。学習指導要領とグランドデザインを見比べながら，どんな文言にしていくのかに苦労した。

・全体計画よりも，年間指導計画の方が困ることが多い。どの項目をいつやるか，その項目をどの題材でやるかなど。

○本校の重点目標に照らして，「教科指導における道徳教育」でどのような言葉を選択するか。指導要領解説から抜き出しているとその言葉だけでは伝わらない。字数に限度があり，重点目標，解説を何度も交互に見ながら言葉を選んだ。

○各校の「道徳教育の全体計画」や「道徳科の指導計画」は，はたしてどの程度なのかとても気になる。

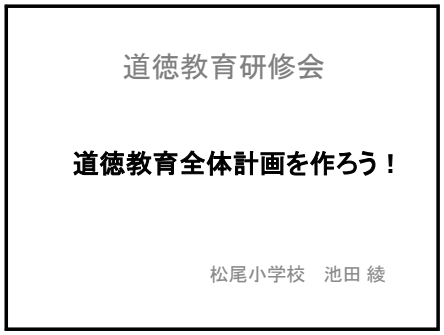
## 三　発信する

道徳教育研修会を開催し，全体計画の作成方法について発信した。

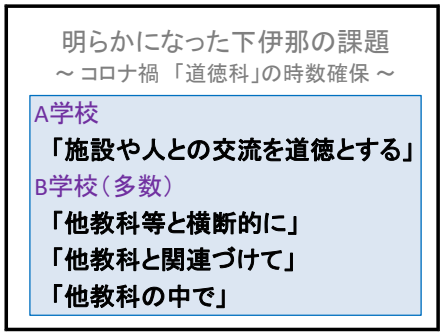
### 1　道徳教育研修会の概要

(1) 研修会名　「道徳教育研修会～道徳教育全体計画を作ろう～」
(2) 日時　令和２年１１月６日(金)　16:30～18:00（90分）
(3) 会場　下伊那教育会館講堂
(4) 参加者
　小学校教員 9名　　中学校教員 7名
(5) 内　容
① 開会行事　16:30～16:40
・はじめの言葉
・道徳委員長あいさつ　（村松委員長）
・終わりの言葉
② 全体研修　（池田委員）16:40～17:00
・質疑応答
③ 演　習　17:00～17:50
※小グループに分かれて演習を行う
④ 閉会行事　17:55～16:00
・はじめの言葉
・道徳委員長あいさつ　（村松委員長）
・終わりの言葉

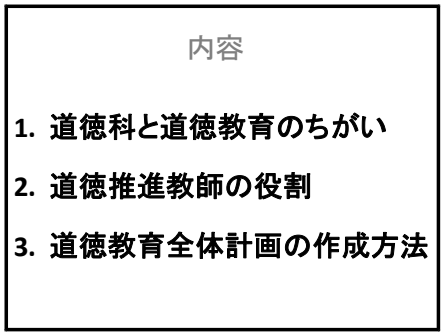
## ２ 全体研修発表内容　　池田 綾 委員（松尾小学校）



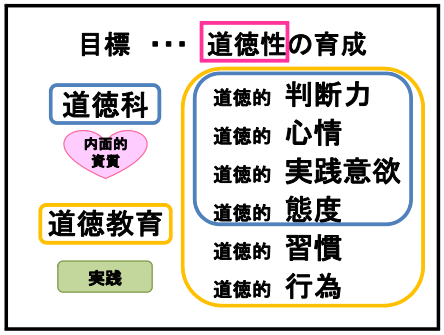

道徳科を要として学校教育全体で行う道徳教育が，職員間で共通認識されるためには，その礎となる「道徳教育の全体計画」が不可欠です。コロナ禍で，授業研究が難しい中，今だからできることに焦点をあてました。



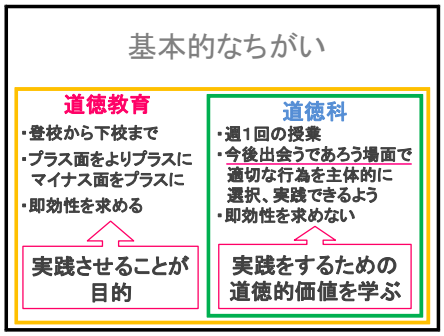

臨時休業中に，「各教科等の指導をどのように工夫するか」というアンケートが配信されました。各校の回答から，「道徳科」に対して，多くの学校で，未だ誤った認識をもっていることが明らかになりました。



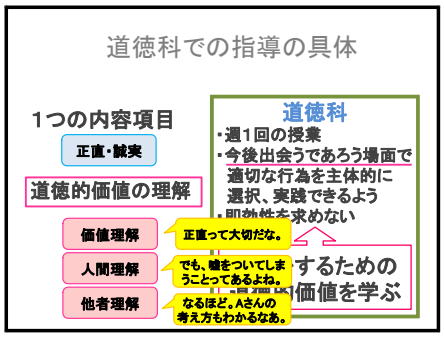

一番の原因は，「道徳科」と「道徳教育」を混同していることだと考えられます。ちがいを押さえた上で，全体計画の作成に進むことにしました。



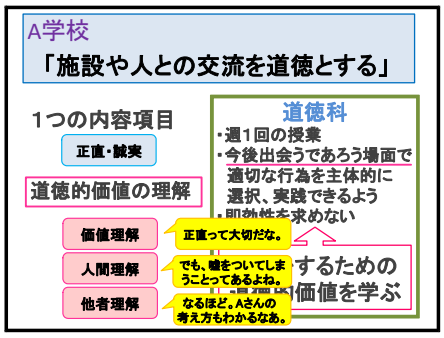

「道徳科」も「道徳教育」も，最終的な目標は道徳性の育成です。「道徳科」では，上の４つ，つまり，内面的資質の育成を目指しています。一方「道徳教育」は，習慣や行為も含めた実践です。



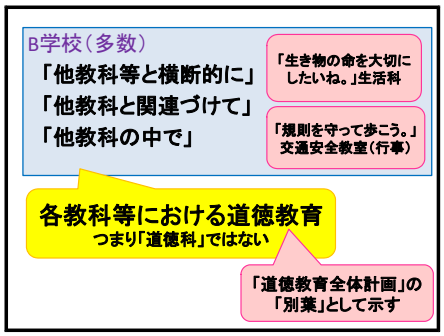

実践させることが目的の「道徳教育」と，実践をするための道徳的価値を学ぶ「道徳科」の基本的なちがいを，学校の場面で示しました。



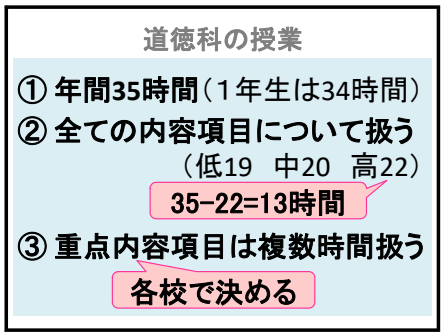

「道徳科」の授業での具体例を示しました。多くの場合，１単位時間に１つの内容項目について，道徳的価値の理解を深めます。



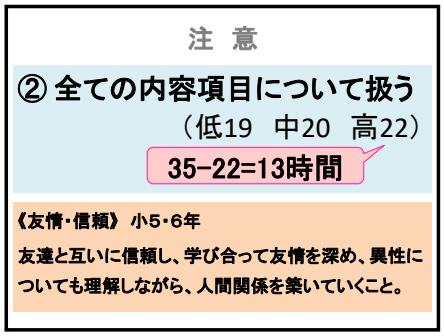

これまでのことから，Ａ学校の回答が，「道徳科」の授業としてふさわしくないことが分かります。




Ｂ学校の回答も，「道徳科」ではありません。これらは，「各教科等における『道徳教育』」であり，全体計画の別葉として作成するよう，学習指導要領解説に示されています。




１単位時間に１つの内容項目を扱った場合，例えば，小学校高学年では，13時間分の余剰があります。この13時間に何を充てるのかを，各学校で決定します。ここで，全体計画が重要になってきます。全体計画の中で設定している「重点」にあたる内容項目を，複数時間充てて厚く指導することになります。




正確には，内容項目の指導の観点に示されている箇所を押さえなければならないため，１つの教材では不足する場合があります。例えば，「信頼や学び合い」についてはＡの教材で，「異性への理解」についてはＢの教材で行う，といったことです。

**道徳科の授業**

**① 年間35時間（1年生は34時間）**
**② 全ての内容項目について扱う**
（低19　中20　高22）
**35−22=13時間**
**③ 重点内容項目は複数時間扱う**
**各校で決める**

しかし，緊急事態で，どうしても35時間を確保できない場合，例えば，小学校高学年であれば，22項目分の最低22時間は確保し，余裕があれば，重点分を追加していけばよいのです。

**指導内容の重点化･･･決定の仕方**

**③ 重点内容項目は複数時間扱う**
**各校で決める**

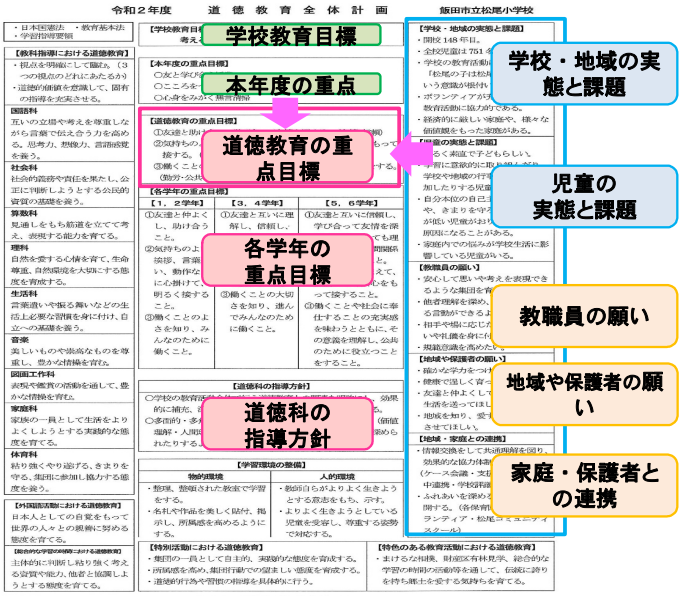
- **グランドデザインから決定する**
- **道徳教育に関する配慮事項（P.127）を参考にする**

各学校で決定する重点は，グランドデザインから決め出すのが正当でしょう。当然ながら，学習指導要領解説を確認しながら作成します。

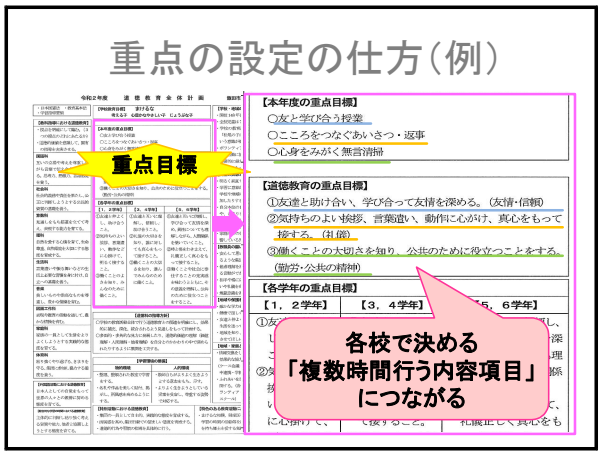
**道徳教育推進教師の役割**

**学校においては、校長が道徳教育の方針を明確にし、指導力を発揮して、全教師が協力して道徳教育を展開するため、道徳教育の推進を主に担当する教師（道徳教育推進教師）を中心として、道徳教育の全体計画に基づく道徳科の年間指導計画を作成する必要がある。**
35時間の指導の時期・順番

学校長の方針が示されているのが，グランドデザインです。それを基に，全体計画（別葉を含む）を作成し，その後，年間指導計画を作成します。

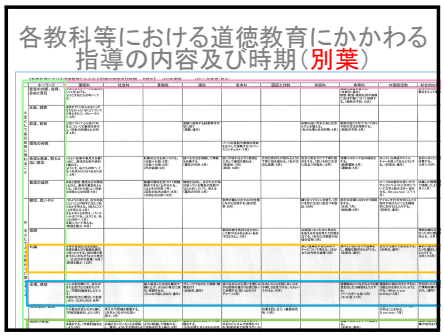



全体計画は，どのような形式で作成しても構いませんが，具備する内容は，学習指導要領解説に示されています。道徳教育の重点目標は，学校目標やその年の重点，児童の実態や課題，教職員や保護者などの願いから導き出されるでしょう

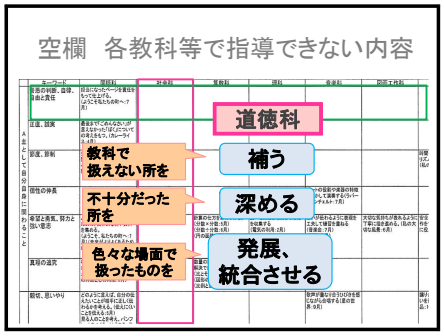



松尾小学校の例を示します。「学校目標」の「本年度の重点目標」から，３つの「道徳教育の重点目標」を設定しました。これが，複数時間行う内容項目にあたります。

「解説」を参考にしながら，「各教科等における道徳教育」についても記入します。それぞれの教科の中で，どのような道徳教育を行うのか，「道徳教育の重点目標」を基にして示します。




各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したものは，別葉にして加えます。こうすることで，各教科等のどの単元で，何に視点を当てて指導するのかが明確になります。重点とした内容項目から作成していくのも一案です。




別葉はすべて埋める必要はありません。むしろ，埋まりません。教科では扱えないところを補い，不十分だったところを深め，色々な場面で扱ったものを発展，統合させるのが「道徳科」であり，道徳教育の要と言われる所以です。

以上の基本的事項を確認した上で，各学校の全体計画を作成するという演習を行いましょう。

## ３　道徳教育研修会参加者の声

道徳教育研修会に参加された先生方より，以下のような感想をいただきました。

### (1) 全体研修について

・改めて道徳科と道徳教育の違いを確かめる機会になりました。3月に全体計画に手を付け，わからない部分，どのように決めだせばよいか迷う部分が出てきていました。今回の研修を通してそこがはっきりして，さらにより良いものにしていく見通しがたちました。

・基本的な知識がなかったので，わかりやすい説明をしていただいたことで，少しですが理解できたように思います。本当にありがとうございました。

・項目ごとのつながりが見え，大変わかりやすかったです。

・初任で道徳教育推進教師になりました。4月から今日まで，何をしたらいいのかわからず，何もせずに過ごしていました。この研修会に参加して，重点内容項目は各校で決めなければいけないということを知り，これまで推進教師でありながら何もせずに過ごしていたことを「まずい！」と思いました。今日を機に，学校でさっそく話し，動きたいと思います。

・わかりやすい内容で，必要なことがきちんと提示されていてよかったです。

**(2) 演習について**

・委員の方が一つひとつ丁寧に教えてくださり，とても助かりました。自分の知識のなさにがっかりしたのと同時に「もっと勉強してみたい！」と思うことができました。
・有意義でした。委員の先生方が大変頼もしかったです。ありがとうございました。
・丁寧に教えていただき，すごく理解できました。学校に持ち帰り，教頭先生にまず聞きながら，一人ではわからないところを埋めていきたいと思います。
・日々の学校生活の中で道徳的な価値を伝えられる場面が様々あり，それを全体計画の中に位置づけることで，より明確になり，どのような場面で，どのような指導をするのかがわかりやすくなると感じました。

・学校にある全体計画を見て「わかりにくい」という感じていました。今回，「こういう視点で作り，見直せばよい」ということがわかりました。初心者に丁寧に教えてくださった委員の方々ありがとうございました。

**(3) その他**

・また機会があれば研修させていただきたいです。ありがとうございました。
・基本的な内容，すぐ使える内容の情報（教材の扱い方，よい教材etc）をアナウンスいただけると嬉しいです。

## 4 道徳委員の振り返り

**【下平 怜那 委員（座光寺小学校）】**

(1) <u>自分で「全体計画」を作ってみて</u>

・重点目標を学校の目標に照らして作っていくときに，どの文句を重点にしていくかをじっくり考えることができた。決められない時に教頭先生に相談することで，本校の大切にしていきたいことをはっきりさせていくことができた。困ったときに周りの先生方に相談し，一緒に考えてもらうことが大切だと感じた。
・保護者や地域が学校に望むことについて，学校評価アンケートや評議委員会，地域の会議について目を向ける機会になった。
・各教科の中での道徳教育について考えることができた。

(2) <u>研修で伝えてみて</u>

・どの学校についても，同じところで悩みながら作っていくことになるのだと分かった。重点目標についてはその学校の様子やグランドデザインを基に，既存の指導計画と照らし合わせながら何を大切にしていくのかを，その学校の先生が考えていかなければいけない。だから，どの学校も一律ではなく，学校ごとの特色が現れる部分だと実感した。
・自分で全体計画を作った後だったので，指導要領解説のどこを参考にすればよいか，何をヒントに作文をしていけばよいかを伝えることができた。

(3) <u>授業や生活，明日からの指導にどう生かせるか</u>

・各教科の中で，道徳教育とのつながりを考えたことで，道徳教育を頭の隅に置きながら日常の授業を行えるようになった。
・道徳の教科書の扱い，教材の配列など，来年度以降の年間指導に反映させられそうだ。
・同学年の先生に，道徳について話すことが多くなった。委員会で学んだことを，身近なところから広げていければよいと思う。

**【寺澤 徳子 委員（鼎小学校）】**

(1) 自分で「全体計画」を作ってみて

▲何を根拠に作成されているのかも知らなかったので，私一人では何も進めることができなかった。

▲指導要領解説や総則を元に作成していることや指導要領解説や総則に書かれていることを，そのまま使ってもよい部分もあることは分かった。しかし，今まであった本校の全体計画を手直しするときは，どこをどう削っていいのか分からなかった。（今まであった本校のものが作成されたのは道徳科になる前で，誰が何を元に作成したのか不明であった。長い文章だが不必要な部分はない気がしたし，かといって同じ内容を短くまとめることも判断がつかなかった。）

◇解決法

・学校教育目標，児童の様子，地域性等をまとめると重点すべき点が見えてきて作り進めることができた。作ったものを道徳部会でみていただくことで，修正できた。

・学校内に道徳に詳しい先生がいて，どこを削ってどんな文章にしたらいいのかを教えていただいた。

・校内の道徳推進教師，道徳に詳しい先生，管理職と相談しながら作成していくことで安心できた。

(2) 研修で伝えてみて

・「全体計画なんて見たことないです…。」という先生も，作成する手順の研修（池田先生の説明）後には，学校の目標や指導方針を基に書ける箇所を埋めていくことができた。学校教育目標と児童の様子・指導要領のを抑えることがポイントなんだと改めて感じた。

・道徳教育の重点目標を１人で判断するのは難しいと感じた。上記のポイントから重点すべき「道徳的諸価値」が見えたとしても，どんな言葉を使って文章にしていけばいいのか，が難しかった。

(3) 感想

・以前は，基本は教科書の順番通りに進めていくだけだったが，重点すべき「道徳的諸価値」が分かったため，字数が限られている中での取捨選択や，授業を行う時期が判断できるようになった。授業内での子どもたちに抑えるべき箇所も見えてきたように思える。

・１回の授業で教科書に書いてある価値項目を全て取り扱わなくても次回の同様の諸価値の単元で押さえればよいことや，１回扱った価値項目をさらに抑えるための授業を考えればよいことが分かり，児童の実態を基にした授業が考えやすくなってきた。

**【宮澤 紀子 委員（伊賀良小学校）】**

(1) 自分で「全体計画」を作ってみて

①作成して学んだこと

・本校（伊賀良小）の場合，数年前の県の道徳研究会公開授業の際，全体計画の練り上げがしっかりと行われていたことがわかった。足りない項目はあったが１度しっかり計画を作成すると，見直すことで毎年の学校目標や重点目標に合わせた計画ができるので，時間をかけてでも，学校独自の計画を作成しておくことが大切だと感じた。

・本校の重点目標を見ると，様々な項目にわたっていた。どれも大切であるが，重点なのでグランドデザインに合わせて重点を２～３項目に絞り込むことが大切だと感じた。

②作成して難しさを感じたこと・気づき

〇重点の絞り込み

何を重点目標にしていくのか，グランドデザインからたたき台を作ることはできるが，一

人で決めだすことは難しいと感じた。研究部会で相談したり，学校で研修の機会を持ったり，学校全体で考えていく必要がある。

〇各教科とのつながり

教科指導における道徳教育では，各教科の先生方に相談しながら文言を決めたところもある。ここでも全体計画の際，学校全体で考える大切さが見えてきた。

〈どちらにも共通していること〉

・道徳教育の全体計画作成には，学校全体を挙げて取り組みたい。

道徳推進委員を中心に，

ⅰ)全体計画の見直し（グランドデザイン・各教科における内容）を行う。

ⅱ)そこから，本年度の重点目標（重点項目）を決める。(研究部会等)

ⅲ)全体計画を学校職員全体が把握・理解する。

というような手順を踏みながら，各学年の道徳科年間計画が作成出来るように広げていくことが大切だと感じた。

(2) 感想

今回，道徳教育の全体計画の作成に携わってみて，まず自分自身が“道徳科”と“道徳教育”の違いを明確に理解していなかったこと，全体計画の存在を軽視していたことが見えてきて，反省とともに大変勉強になった。仕組みが分かると，道徳の授業に関する視点も変化してきて，興味を持って取り組めるようになった。自分が感じたこの思いをぜひ他の先生方にも感じてもらえたらいいと思ったので，学校にどう広げていくのかしっかりと考えたい。

**【大嶋 信一郎 委員（緑ヶ丘中学校)】**

(1) 自分で「全体計画」を作ってみて

「道徳教育全体計画」を作成するにあたり，より深く学習指導要領解説を読むことから始めた。委員会の中で「やるべきことは全て学習指導要領に書いてある」という話があり，その通りだと感じた。今まで何となく，自分の経験や先輩の先生の教えや教科書，道徳教育計画を参考に授業を展開してきたが，自分で全体計画を作成したことにより，道徳に関しての知識が整理することができた。

また，自校のグランドデザインをより深く見ていくことで，道徳教育重点目標とすべき道徳的価値を改めて設定することができた。こういったことを学校全体で共有していくことで，生徒の指導が変わってくると感じる。全体計画を基に，各道徳的価値を高めるための年間指導計画や題材の選定などを考えていきたいという意欲がより高まった。

(2) 研修で伝えてみて

研修会において，参加者の中学校の全体計画を一緒に考えた。グランドデザインと学習指導要領を見比べながら考える中で，学校の重点目標と学校や地域，生徒の実態がリンクしており，それにリンクさせて道徳教育の重点が設定されるというつながりに改めて気がついた。道徳教育は全教育活動を通じて行うので，当たり前かもしれないが，その当たり前が大切だと感じた。

(3) 感想

この研修を通して，道徳教育の全体が何となく理解できるようになってきた。ただ，これは基盤であって，「道徳科」の授業をより良くしていくためには，まだまだ研修が必要だと感じてる。今回の研修で作成した道徳教育全体計画を基に，年間指導計画の作成や題材の選定，発問の工夫などをより丁寧に行っていきたいと思った。とくに題材については「引き出し」が少ないので，多くの題材に触れ，「こんな道徳的価値に触れさせたいからこれをやる」となれるように今後も研鑽を積んでいきたいと思った。

**【北原 久仁哉 委員（高陵中学校）】**

(1) 自分で「全体計画」を作ってみて

これまで作ってきた過程で考えてきたことは，「実際の授業作りや，授業計画の見通しに役に立たないわりに，作るのは大変」「どう作ったら良いか分からない」「どうせ誰も見ない」というような内容だった。今回，「このように作れば良い」というお手本に基づいて全体計画を作れたことは，真っ暗な中で手ごたえもなくもがいていた状況に，光が差したようだった。ひとまず，苦労ばかりして，きちんとしたものもできない（できているか分からない）という不毛な状況からは，一歩抜け出せた気がする。次の課題は，道徳教育全体の方向性や考え方が，学校目標や生徒の実態に即しているか，道徳教育で押さえるべき内容項目を１年間で消化していけるかなど，実際に血の通ったものとして運用していくところではないかと思う。そのために，学校の道徳係として，全体の様子を把握し，マネジメントを力強く行っていくリーダーシップも必要だと思っている。一方で，係の都合ばかりを主張し，現場のクラスの実態や，必要感から乖離していっては，学校として大事にしていきたいことが共有できなくなってしまうため，押さえるべきことと，現場で大切にしたいことのバランスを上手くとれるよう，係がかじ取りをしていく大切さも改めて感じた。

(2) 研修で伝えてみて

自分と同じように，全体計画の影も形も分からず，苦心したあげく，ネットの見本を拾って自校用に翻訳してなんとかしのいでいる係は多いのだろうと感じた。各学校のフォーマットもばらばらで，初めて見る人にとって分かりやすいものとは言い難く，そのような状況も，より一層このような取り組みが忌避される要因に思う。今回の委員や，足を運んでくださった先生方でもこのような状況があるのだとすると，世の中の多くの学校は，何とか形だけ整えているような状況ではないかと感じる。今回，「グランドデザインなどに沿って，この枠を埋められれば形になりますよ」というフォーマットを分かりやすく示せたことは，道徳係が，ある程度きちんとしたものを，少ない労力で作ることができ，道徳はややこしいというイメージの軽減につながるものになると思う。

(3) 今回の取り組みをいかに日常につなげていくか

全体計画が，日頃の授業作りに生きる場面を思い浮かべると，やはり，休校など，授業時間を精選せざるを得ない状況で，どのように優先順位をつけるかというとき，判断基準となるということが大きいと思う。

## Ⅳ　まとめと課題

・コロナ禍の中での１年間だった。年度当初は，臨時的休校が続き，道徳の授業をどのようにしていくか，見通しが持てないうちでのスタートであった。分からないと不安になる。「道徳の授業が35時間とれない」「教科書のどこを選択すればいいのか」・・・。道徳委員会での本年度の取り組みによって，何かあったときや困ったときには，“学習指導要領”という根本に戻れば良いということを痛感した。“学習指導要領”に戻り「道徳教育の全体計画」を見直すことで，その学校の「道徳教育」が分かり，道徳科についても明確に見通しが持てることがはっきりとした。

・「道徳教育の全体計画」を，「学び」「やってみて（作ってみて）」「発信する」ことによって，道徳委員自身が大変勉強になった。

「全体計画」や「道徳科の年間授業」を理解することは，１時間１時間の授業づくり，一つひとつの発問やその構成の土台になることが分かった。来年度の道徳委員会では，本年度学んだことを大切にして，授業研究に取り組んでいきたい。